

平成29年度 まちづくり懇談会

ちの地区会場の要旨

平成29年11月14日（火） 19:00～20:45

ちの地区コミュニティセンター 参加者 116名

市長：皆さんこんばんは。本当に日が落ちるのが早くなりました。また朝晩もめっきり冷えこむようになりまして、冬の訪れを感じる時期になりました。本日は大変お忙しいなか、平成29年度まちづくり懇談会に大勢の皆様にご出席をいただきましてありがとうございます。また日頃より茅野市のまちづくり・ひとづくりにご理解、ご協力をいただいておりますことに改めて感謝御礼申し上げます。過日10月22日の晩から23日の台風21号におきましては、上原区下町地籍の皆様には浸水被害ということで大変お気の毒でございました。そして地元区、あるいは消防団の皆様にもしっかり対応していただきましたことに、改めて感謝御礼を申し上げます。この件につきましては12月半ば頃になろうかと思えますけど、県を交えての検証会、これからの対策会議をもちたいと思えます。関係する皆様にはご案内を差し上げますので、どうぞよろしくお願ひいたします。昨年のまち懇では「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということで、これからのまちづくりにつきまして皆様と意見交換をさせていただきました。そんなご意見も反映する中で、ただ今第5次茅野市総合計画を策定中でございます。今日はその基本的な指針についてお話をさせていただき、それに対して皆さまからの更なるご意見をいただき、最終的な総合計画に反映できるものは反映していきたいと考えております。そして後段では「ちの地区の魅力、それをどう活かしていくか」そんな意見交換を予定しております。今茅野市におきましてもシティプロモーションということで、茅野市の魅力をどういう形で発信していくか、そんな取組をしています。当たり前ですけど茅野市の魅力は地域の魅力であり、地域の魅力が茅野市の魅力となる訳でございます、普段皆さんがちの地区、あるいはそれぞれの区において「こんな良いものがあるぞ」というそんなことをお話していただき、ポイントはあるだけでは駄目でどう活かしていくかになると思えますので、そんな意見交換ができればと思っております。短い時間でございますので、是非皆さんには活発なご発言をお願いいたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

企画部長：続きましてこのまちづくり懇談会は、ちの地区コミュニティ運営協議会との共催で実施をしておりますので、会長小池様よりご挨拶を頂戴したいと思います。

ちの地区コミュニティ運営協議会会長：皆さんこんばんは。ちの地区は大きい区がたくさんございます。茅野市の2割でして、地域的にも人口的にも大変大きい地区になります。そういった中でちの地区に関しては、それぞれの区にまちづくりの計画等についてもお願ひしているということもございます。しかしながら先程市長さんのお話にもありましたけど、大きな課題に向かって進んでいくためには、それぞれの地区また市が一体となって進めていかななくてはいけ

ない部分もあろうかと思えます。そういった意味も含めまして10月の災害のお話もございましたけど、10月1日に初めてちの地区全体のそれぞれの区にございます防災組織が総動員する形で合同の訓練をさせていただきました。そうやって一つ一つ積み重ねていくことで我々の地区コミュニティ運営協議会の中では「茅野市を引っ張って行こう」と、そんな自負もございます。そういった良い形のものを少しずつ積み重ねていく中で、結果的に茅野市全体が魅力的なまちになっていくだろうと思っております。我々ができることは限られておりますけど、是非こういった機会にそれぞれの区または市民の皆さんの率直の意見をお聞きする中で、これからのちの地区の方向、茅野市の方向がおのずから見えてくると思えます。数少ない機会であります。思いのたけを披露していただくには若干時間が物足りないかもしれませんが、そんな意味を込めまして活発な意見交換ができればと思います。ちの地区全体の底上げ、安心して暮らせるまちは夢であります。短い時間になってしまうかもしれませんが、充実した時間にしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

－テーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照－

市長：視点ごとに意見交換をしてまいりたいと思えますけど、先程の将来像についてのご意見であってもかまいませんし、総合計画全体の質問でもかまいませんので、ご自由にご発言していただきたいと思います。

まず1点目の「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」ということで、簡単に言うと茅野市には4保健福祉サービスセンターがございます。これは中学校区ごとにある。そして10地区にコミュニティセンターがある。今までは第3層、4層と言っていましたけど、そこが中心になって福祉のまちづくりをしてきた。これからの10年は区・自治会、あるいは大きいところでしたら組単位でその仕組みをどう作っていくかという、簡単にいうとそんなことになるかと思えます。この取組につきまして皆さんの方からご意見、ご質問をいただければと思います。

家庭教育センターにはこども館がございます。茅野市はそれぞれの地区で「地域の子供を地域で」という視点で取り組んできていますけれども、それはそれで大事なことでこれからも進めていきたいと思えますけど、区に帰ってきたときにあれば全然雰囲気は違いますし、こども館での取組と、公民館に行ってそこのおじいちゃんおばあちゃんが居てくれると、また違った対応ができるかと思っております。ただ「言うは易し、するは難し」でございまして、実際そこに誰かが居てくれないといけない訳でして、そういう仕組みをどう構築していくかということ。やはり地域の皆さんも暇があったらそこに顔を出して、お茶飲みサロンでも良いですのでそういう形で居てくれることの意識を持ってもらわないと、形は作ってもそれが機能していかないと思っています。

市民：このまちづくりの基本方針に「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」とありますが、上原区は公民館はありますけど小学校は当然ないですし、保育園も当然ないです。そう

したときに「地域の子供が地区に集まって」と言ったときに、これから先年寄りが増えてきて、そんなに遠くまで出歩くというのができなくなると思いますので、学校であったりとか活動の場所が限られてしまうと思います。そんなときに公民館なりそれにそぐうようなものが近くにあって、いつでも誰か来れるような形にしていかないと無理かと思えますし、今後老人が増えて若い世代が減るという話がありましたけど、どうしても公助の関係が老後の公助になりかねない。そういうことが出てきますので、いろいろな部分で人が足りなくなってしまう。そうするとしわ寄せがきて、区の関係の仕事やコミュニティの仕事だったり雪かきだったり若い人達にいつてしまつて仕事がおろそかになってしまい、悪い方向の負のスパイラルにまわっていく感じになると思います。もうちょっと基本的な形で、観光で人を呼び込むのも良いですけど、日本人もだんだん減っていきます。日本人に限らず外国人も呼び込んでいかなくてはいけないと国の方針でやっていますので、どこか考えてみて地域全体を活性化していけないといけません。茅野市だけでなく諏訪地域全体の魅力を発信して多くの観光客なりこちらに移住できる人を呼び込むためにも、交通の便も諏訪地区はあまり良くないですから、それも含めて多方面にわかつて検討していただいた方がより良いかと思えます。またご検討の方よろしくお願ひします。

市長：ありがとうございます。一応茅野市の計画ということで市のことでうたっていますけど、広域連携は本当に大事なことでして、ものづくり産業にしても観光にしても諏訪圏域でやれることはやっております。しかも、会場は茅野ですけど航空宇宙産業の今後の展開ということでフォーラムが開かれます。やはりこの圏域全体で底上げをしていかなくてはいけない、おっしゃるとおりです。その中で、これは手前みそかもしれませんが、茅野市が引っ張っていかないといけないと思っています。そんなことで茅野市の魅力づくりもしっかりやっていきたいと思っています。確かに年寄りが増えてくる、そう遠くまで行けないとなると、やはり拠点はどう公民館を使えるかというのが、私は大きなポイントになってくると思いますので、その地区の各区によって事実上は違うでしょうし、大きさも違ってくるという中で一律には考えておりません。その場所で何ができるかを、当然各区任せではなくて市も一緒に考えていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

各課題ごとに流していきますので、戻つてご発言をいただいてもかまいませんのでよろしくお願ひします。「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」ということで先程おっしゃっていました、そこに雇用の場所がないとなかなか人が来てくれない。もっと簡単に言うと良い産業があつて、そこに働き世代が来てくれれば単純に人口が増える。若い世代ですと、そこに子供も増えるということになります。そんな仕組みを作つていかなくてはいけないということで、ちょっと前に新聞に出ていましたのでご案内のことかと思ひますけど、来年豊平にディスコという会社が進出してまいります。そうすると従業員550人規模でということで非常に期待をしているところですけど、問題は今の状態で諏訪圏域に550人働き手がいるかと言うと、いませんよね。そうすると既存の企業から引き抜かれるのではないかと、既存の企業の経営者は心配し

ています。市とすると「全員でなくても、ある程度の従業員をこっちへ一緒に連れてきてくれ」とお願いしています。そうすると例えば300人働き手が来てくれれば、その家族も来るとなり一番良い結果になるかなと思います。それもそう簡単にはいかない問題ですけれども、そういったことも含めながら、ものづくり産業の企業誘致等もしてまいりたいと思いますし、観光を切り口としたまちづくりもしっかりとものにしていかなければいけないと思っています。これに何かございますか。

市民：「観光を切り口としたまちづくり」とうたっていただいています。上原区でも観光業者主催でまちの史跡を巡って歩いている方がいるんですけど、歩道がなく狭いんですよ。結果的に景色を見ながら歩いていると事故に遭遇しそうな方も見受けられます。何を観光にするかがポイントですけれども、やはり歩道はそこそこの広さを持たないと危険かなと思いますので、その辺のまちづくりも検討お願いしたいと思います。

市長：ありがとうございます。やはり社会基盤をしっかりしないと、良い安心・安全なまちはできないと思います。昨日の理科大の学生との中でも、社会基盤の問題は学生からも出ました。ではご案内のように即という訳にもいかない中で、これも何かの手当をするときにはそのことを意識してやっていくことになるかと思えますし、上原地区の国道20号は諏訪バイパスが全部完成したらどうなりますかね。そんなには交通量は減らないかなとは思いますが、ただそうするとやりようがあるかと思えますし、場所によってはバイパスができたことで昔の村中を走っていた道路のような、ゆとりを持って生活できるようになったところもございます。そんな効果も含めた中で、まちづくりを進めてまいりたいと思います。他にどうでしょうか。

いったん次へ行きます。教育の分野でございます。この分については教育長から補足説明をお願いします。

教育長：皆さんこんばんは。今日、小学校と中学校の教員も来ていますので、私からは簡単に説明してバトンタッチしたいと思います。先程市長からの説明もありましたが、繰り返しになる部分もあるかと思えます。茅野市の教育が他の市町村と比べて一番特色になっていること、あるいは注目されていることは、幼稚園・保育園・小学校が連携している点です。その上で小学校と中学校が一貫教育を進めている。幼保小中の連携一貫教育がシステムとして出来上がっているという点が、他の市町村と大きく違う特色になっています。そういう中で幼保小中を縦に貫く1本の糸として「読書・図書館教育」に力を入れています。実際、幼稚園・保育園から小学校に入ったときに学校に来なくなる子、適応できない子、それから小学校から中学校に上がったときに不適合あるいは不登校になってしまう子供が全国的にはかなりいる訳ですが、茅野市の場合この数がゼロとは言えませんが極めて少ない。小中一貫、幼保小連携教育が上手くスタートし始めていると思います。特に小中一貫教育の方では、小学校と中学校の教え方が違わないように、連携がスムーズにいく授業づくりに一番力を入れています。また生徒指導も小

学校と中学校で一貫していくように考えています。ようやくスタートしてこれから益々充実させているときですが、東京理科大が公立化していく状態の中で、保育園・幼稚園の教育、小学校の教育、中学校の教育、大学の教育、そこに高校の教育もありますが、可能の枠の中でどう連携していくことができるかが、これから考えていくべきことではないかと思います。幼保小中一貫教育という大きな枠の中で、今年度大きく開始したのが英語教育です。平成32年から学習指導要領で英語が週2時間行われるようになります。茅野市の場合、移行期間を3年取って今年度から始めました。台湾の英語専門の先生をお呼びして子供達の英語教育と同時に、私達自身が英語を教えられる力をつけるということをやっています。是非、小学校に行ってどんな英語教育をやっているか見ていただければ納得いくと思います。ICT教育も平成32年度から国では本格実施していく訳ですが、今年度から開始しました。今年度11月中に全小中学校にテレビ会議システムを配備して完成させます。実際に豊平小で実験した訳ですが、テレビ会議を使って児童会・生徒会同士、あるいは英語の授業の交流が可能になっています。タブレットの方も出来る限り配備しました。来年度は全教室に大型テレビ、可能な限りタブレットを配備するというので、実際に教育の中で使っていこうと考えています。縄文科の方ですが、英語・ICT教育がグローバル化・知識基盤社会これからの教育ということに対して、縄文科では「もう一度人とは何か、人間としての生き方は何か」、実際に具体的な自然に触れ合う、土に触れ合う、手で触ってみるという中で、人としての教育、具体的な自然・人と関わる中での教育を大切に考えています。具体的には小中一貫教育で子供はどんな風が変わってきているか、英語教育・ICT教育の様子、それぞれ小中の教員から話してもらおうと思います。

永明中学校長：日頃から永明小学校・永明中学校の児童・生徒を温かく見守っていただきありがとうございます。また教育活動にご協力いただきありがとうございます。教育長さんからは読書教育、また学び合いのところで小中連携一貫とありましたが、私からは本年度からスタートしましたので、どういう交流が行われているか、どういう変化が見られているかについて話をしたいと思います。4月のスタートのところでは何をやって良いかわからない状況でしたので、校長を中心に「こういうことをやってくれ」と言ってスタートしています。具体的には入学式で吹奏楽部が演奏したり、花壇作りをしたりをしていました。それが2学期に入ってくると自然な形で行われるようになりました。合唱祭のところに5年生が聴きにきたりとか、家庭科の授業を共同でやったりしました。それは自分の方から提案した訳ではなく、職員が動き出しているところがあります。職員が積極的に動くことで、子供についての情報交換も積極的に行われるようになりました。並行して生徒達も自信を付けてきたので、外に出て活動したいという発想も出てきて、夏の「茅野どんぼん」では生徒会が中心となって永明中の円を作って踊らせていただきました。私としては卒業生も含めて茅野市の良さを知った子供達が、将来的に「茅野市の中で活躍して欲しい」という想いを持って取り組んでいるところであり、そんな点で地域の皆様にはご協力いただくこともありますが、よろしくお願ひします。

永明中学校教諭：今年度縄文科の取組ということで、3学年では茅野市の地域戦略課の方をお願いをして、「こんな講座をやりたいけど講師を呼んでもらえないか」という話をさせてもらいました。市の方でいろんな講師の方を紹介していただいたり、校長先生にもお願いをして講師を紹介していただいたりとか、そういった形で子供達がやりたいと思ったことに対して、教員ではなくて市に住んでお店をしている方だったり、ご自分の趣味を活かして子供に教えてください方だったりとか、私達ではなくそういう方が子供達に接していただいて、その中で学習を深めることができました。そういったところが個人的にはありがたくて、学校で職員が教えるだけではないことを地域の方に教えていただけることは、子供にとっても貴重な機会になりましたし、職員が教えるのと違った良さ、地元の良さや地域の魅力を見つける良い機会になったと実感しています。読書活動については、朝読書を毎朝10分間やっています。本当に本が好きな子供達が多く、図書館の本や自分で見つけて買って来たりとか、休み時間に本を読んでいる子もたくさんいます。自分は国語科の教員なんですけど、国語も割と好きな子が多いので、小さいときからの読書活動が子供達の学習の力に繋がっていると実感しております。

永明小学校教諭：小学校では幼保小のこと、保育園のお子さんとの交流を通して保育園のお子さんが安心して上られるような状況を作るために保育園の先生とお話する中で、小学校の教員も小さなお子さんへの接し方を学ぶ機会を作っていただきました。英語教育は先程お話のあったように本年度あき先生という台湾の先生に来ていただきまして、子供達が楽しみながらも英語の力をつけるという学習方法を熱心に学ばれている先生で、子供達も楽しく学びながら英語の発音も力をつけていると同時に、私達職員も教え方や英語の先生がいない時間に「こういう授業をしたら良い」と教えていただいて、そういう授業を心がけています。ICT教育の方では地域の河西先生にご協力をいただいてマナーの講習会や、PTAの方達のご協力でパソコン教室、理科大生のパソコンクラブを進めていただいているので、教諭としてもありがたいなと思っています。

市長：ありがとうございます。茅野市に来ると先生方、結構大変だと思います。他所にはない縄文科や幼保小をやってもらっています。その中で先生達一生懸命やってもらっているなど。ただ残念なのは何年かすると茅野からいなくなってしまうことがある訳ですけど。でも茅野市で学んで、それが全県に広がっていくということもあるかなと、そんな想いもしています。教育に関して普段お感じになっていることがありましたらどうぞ。

永明小PTA会長：今年はPTAの方で、車のおもちゃを使ってiPadでプログラミングして車を走らせるというおもちゃを4台購入しました。そういうことではコンピューターの方もやらせてもらっています。先程もあったように理科大の方に来ていただいて教えてもらっているので、小中大みたいな大学まで含めた一貫教育になっているのかなと思います。日頃皆さんに見えておられ、運動会等も無事に終わりました。ありがとうございます。これからは小中一貫

のことでご協力いただきたいのでよろしくお願いします。永明小学校はまもなく150周年を迎えます。その時はまた皆さんにご協力をさせていただくかと思えます。よろしくお願いします。

教育長：私の方からも一言お願いしたいのですが、学校は地域のもので、教育はみんなで育てていくもの。永明小のコミュニティスクールは茅野市の中で一番進んだ取組になっています。どうか学校応援していただいて、どんどん学校に入って行って永明小中の取組が茅野市に広がっていけばと思っていますので、よろしくお願いします。

市長：皆さんからご発言をお願いします。

次に進みますが、その前に英語の秋先生の授業は明日の8時45分から見られます。副市長も明日見学に行くようになっていますので、皆さんも時間のある方明日永明小学校に行ってもらえたと、本当に目から鱗の教え方をしてくれています。子供に教えるときに「こういう接し方があるんだ」と勉強させてもらえます。

「安全・安心を支える社会基盤づくり」の保育園や小学校の整備となりますと、ちの地区は永明小・中の改築が茅野市の中では一番直近でやっていかなくてはいけない課題ということで、年明けぐらいから具体的に動きだします。地元塚原区は特にそうですし、ちの地区の皆さんにはいろんなご意見をいただきながら良い形で整備してまいりたいと思います。

市民：先月20日付近に臨時区総会を開催いたしまして、本町通り中心市街地活性化事業ということで、昭和33年に観音通線という都市計画道路が公民館の真上を通っている訳ですが、まちづくり委員会がもう6年になりますが、ずっと検討してまいりました。アンケートをとったり、今年は懇談会を2度ほどやって区民の皆さんのご意見をお聞きすることをやってまいりました。その結果、昭和33年の都市計画道路を本町通りに付け替えて、これを中心市街地活性化事業の中で今の商店街通りを16m道路にしていこうと議決をいたしました。その後市長さん、都市計画課の課長・係長さんの3人がお見えになられまして、今後どうしていくか具体的なところの話をお聞きしました。すでに駅東・駅前・宮川区が終わって今度は本町の番ということでございます。そんな中反対意見もございましたが、私は今年の区長の最優先課題で「本町のまちづくり」ということで皆さんに申し上げまして、何とか区としては議決してその道を作っていこうという結論に達しました。本町は扇の要と言われているところで、皆さんにいろんな不便をおかけしていますが、本町の通りが本当に安全・安心な道なのかというと、とても危険で危ない道でございます。水路も漏水していることもありまして、その上の歩道もボコボコした道で、あんなところをつまずいたら大型トラックでも通ったらひかれてしまうと。街灯もいつ倒れるか分からないと、いろいろな部分でそろそろやらなければならないということで、私も「ここで議決されなければ本町は100年後もこのままだ」と皆さんにお話して議決をいただきました。本町もこれから進んでいく訳ですが、皆さんご協力よろしくお願いします。ありがとうございました。

市長：区をまとめていただいて、ありがとうございます。これから越えていかなければならないハードルもある訳ですけど、一緒になって取り組んでいきたいと思っています。私も今は毎朝歩くようにしています。最初は栗沢橋で降りて役所まで歩いていました。だけどあの歩道を歩いていたらつまづく。すぐ近くを車が通る。秘書の方から「あそこは危ないから駄目だ」と言われて、今は自宅から理科大まで2キロほど朝歩くようにしていますけど、今歩いているところでもいろんなことが気になるし、正直茅野市の道路は良くないなと思っていて、少しでも何とかしたいと思っています。まだまだいろんな対応をしていかなければいけないですけど、こちらからもよろしく願います。議員の皆さんも後押しよろしく願います。

他にございますか。それでは「あらゆる主体による協働のまちづくりに向けた仕組みづくり」ということで取り組んでいます。ゆいわーくを使ってみてどうだったとか、そんなことでもかまいません。ご発言をお願いします。

では第5次総の基本指針も含めまして、「地域の魅力とその活かし方」について進めてまいりますので、まずは説明をお願いします。

ちの地区コミュニティセンター所長：資料の説明をさせていただきます。魅力的な地域資源としまして、1番「駅、市役所があり、市の中心として茅野どんぼん、子ども祭り等イベントが開催され、人の賑わいがある」、2番「獅子舞、どんど焼き、どぶろく祭り等の伝統文化の継承をしている地区である」、3番「各区の区長が中心となりコミュニティ団体を形成し、区行政、公民館活動、夏祭り、敬老会、災害対応訓練などの活動を行っている」ということが魅力的な地域資源と考えまして、それぞれの行政区ではどんなことをやっているかという点、上原区では葛井神社、上原城址、頼岳寺を代表とした歴史文化の宝庫であり、そこでの整備や歴史学習会等を行っています。横内区では、区画整理事業により街並み・公園ができ、そこでの区民祭を開催しております。茅野町区では、茅野駅を中心とした商店街、軽トラ市や新そば祭りを開催しております。仲町区では、七夕食事会・夏まつりなどの活動があり、区民同士の交流が盛んであります。塚原区では、交通機関や公共施設が充実しているということになります。本間区では、どぶろく祭・お神楽・祇園祭等伝統行事があり、そこでの区民参加の踊りやどぶろく太鼓の活動を行っています。城山区では、同時期に同年代の人が入居したことで、まとまりや近所付き合いの良さが、魅力的な地域資源と掲載させていただきました。

市長：ちの地区という点、駅があり市民館があり市役所があり、市の主だった公共施設があるという中で、「何かのイベントとなると駅を中心としたくくりの中で」ということが、最大の魅力かなと思っております。そんなことも含めまして、また区ごとの魅力もございます。それを上手く連携させるみたいな取組ができれば面白いのかなと思っております。皆様から「自分だったらこんな取組が良い」と思うということも含めまして、ご発言をお願いします。

消防団の皆さん、若いとこで、ちの分団で活動していく中でちの地区の魅力、部の魅力でも

良いですけどご発言ありませんか。

市民：最近親に聞いた話なんですけど、地域の魅力のところでは城山区の「近所付き合いの良さ」ですけど、城山はすごい坂道で高齢世帯が多く子供が減っているという話の中で、買物や病院に行かれる方をご近所で500円で送迎するというシステムができていくらしく、そういうことが地域でできていることが凄いなと思います。私は整形外科に勤めているのですが、その患者さんでも「バスの本数が減って来るのが大変」という話だとか、私は本町に住んでいて前は西友「イオ」があったのでそこに買物に行けたのですが、そのイオも無くなってしまったので、車で買い物に行かざるを得ない。買物は毎日の生活に密着してきて、買物難民という人達がどれくらいいるのか、それについての対策とか。バスの本数も減らさざるを得ない現状もあるのかもしれませんが困っている利用者もいらっしゃるの、何とかならないのかと思いました。あと個人的なことにもなりますが、私は子供が多いので諏訪圏内の高校の授業料無償化の話は進んでいるのか。先輩のお母さんに署名活動があったという話を聞いているので、その辺りはどんな風になっているのか、そんなことを思いました。

市長：今、県立高校は無償化になっていると思います。私学の方も前よりは学校に対しての助成金が多くなっているかなと思いますけど、公立ほどではないかなということ。今政府の方で教育の無償化に力を入れる取組がありますので、その動きをチェックするところかなと。今日はそんなところではないです。またしっかり調べてご返答いたしますので。買物難民等に対しての公共交通ということで、どの地区にとっても大きいことです。市としても少しでも現状より良くしようということで、ビーナちゃんバスも週1回を週2回なり3回にしました。周る経路もできるだけ融通が利く経路にしてありますけど、まだまだ正直皆さんの満足度が高いとは思っておりません。これにつきましても、どの地区にいても出てくる課題でございます。引き続き更に良い形にしていきたいと思っています。最終的には山の方にいったらその地区でコミュニティバスみたいな形で運行した方が良いなら、そういう形も考えなければいけない。市街地も循環バスというものがありますけど、これをさらに良い形に回すことができるかどうかということがあります。皆さん行きたい所が大きく分けて商業施設、病院、温泉、また役所を利用しに来るとあって、茅野市は扇状に広がっていますので、なかなか効率が悪いんですよ。ぐるっと回って良ければ、30分に1本ずつぐらいまわせば良いのですがそうならない部分があります。さらに知恵を出していきたいと思いますが、皆さんもこんな風にしたら良いかなというご提案は、遠慮なさらずにしていただきたいと思っています。

市民：子育ての関係で気になることがありまして、保育園に通わせているお母さん達の話をするのですが、保育園に入れるために頑張って仕事を探しているという話をよく聞きます。女性に外に働きに行ってくださいというのが国の政策だと感じているんですが、子育てという部分で自分の子供をもっとゆとりを持って見られる環境というのが必要だと感じていて、「働

かなくては見てもらえないから働く」となっていくのは本末転倒かと思います。高校無償化じゃないですけど、保育園とかは「3歳以上は受け入れます」というような方向性に持っていったくれば、お母さん達は安心していられると思います。

教育長：一つは東京では「待機児童ゼロ」を目指していますが、実際は大都市部にいくと保育の質が下がっていて、実際10人の子供を1人の保育士が見るところを極端だと20人の子供を1人の保育士が見るような形で、質が下がっています。茅野市の場合は、保育の質を絶対下げないということを目指しています。茅野市の保育は胸を張って自慢できる場所があります。もう一つは家庭支援ということで、来年度今までこども課・学校教育課・幼児教育課・発達支援センターでやっていた支援を、より保護者・家庭の方に利用していただけるようなシステムに変えようと進めています。その上で保育園の入所の条件というのは幼児教育課の方からお願いします。

幼児教育課係長：保育園の入所の関係ですが、平成27年から「子ども・子育て支援新制度」ができて、保育園に入るのに「認定」というものが必要になりました。現在保育園に入っているお子さん「1号認定」「2号認定」「3号認定」という形で、認定を持っていただいています。それまでは「認定」というものが無く、お父さん・お母さんが働いていなければ保育園で預かりますが、高い保育料がかかるという制度でした。平成27年度から認定制度が導入されて、3歳以上の場合お父さん・お母さんが働いていない場合でも「1号認定」として所得に応じた階層によって保育料が設定されて、保育園でも預かる仕組みになっております。都会ですと待機児童が出たりということで入っていただくのが難しいんですけど、1号認定の方につきましても基本的には保育園の定員に余裕があればお預かりしている、といったことでやっております。

市長：かいつまんで説明します。保育園は保育を必要とする子供に対して場所を提供する福祉の事業です。幼稚園は文科省で教育で、保育園は厚労省の福祉事業です。そういった違いがございまして、現在でも同じです。そういった中で本当に保育が必要かどうか。家庭で見ようと思えば見られる家庭もあるかと思えます。ただ幼児教育のような形で保育園に保護者の皆さんも当たり前のように入れており、そういう時代だと思います。国の方も3歳以上は保育園で預かれるように、幼児教育の範疇になるのだらうと思えますけど、その中で本当に保育を必要とするご家庭もございまして。その中で「1号認定」「2号認定」の違いは、月どのぐらい働けるか。月64時間以上だと「2号認定」以下だと「1号認定」という違いが出てくるので、「無理して働くようになる」というお話になっているのかなということで、保育園で預かれないということではありませぬので、その辺はご理解いただければと思います。今それも問題ですが、3歳以下の乳幼児が多くなっています。子供の人口は減っていますが、保育園の園児の数は増えています。この原因が2歳児・1歳児のお子さんが増えていて、これも子育てという面か

らみて、お子さんにとって本当に幸せなのかという議論もごございます。実際預けないと生活ができないというご家庭もごございますし、いろんな角度からどうしていかなければいけないかこれからの大きな課題として、市民の皆さんとも意見交換してまいりたいと思います。今は6ヶ月から預かれますから、最初に子供が歩く姿を見るのが保育士さんですよ。これは本当に幸せなことなのか。我が子が立った、歩いたというのを親が見れないという状況が本当に良いのかということで、市では歩いたことは「今日保育園でできましたよ」とかは言わないようにしています。「そろそろ歩くとします。注意して見てあげてください」というと、歩くと親が感激して親子の絆もできてくる。そんなことも含めてどういう保育の在り方が良いのかは、まだまだ研究しなければいけないかなと思っています。

市民：お聞きしたいことが2点ございますので、お願いします。1点は毎日夕方6時にチャイムが鳴っています。今の時期ですと日が暮れてから1時間以上経ってから帰りましようと言っている訳です。これを他の自治体だと2回か3回に分けているところもありますので、日没の時間に合わせて変えていただけたらと思います。もう一つは少し前に選挙がありましたけど、選挙の開票の準備で体育館が二日使えなくなります。大会とかいろいろあって困ったところがありますので、できれば開票所を市役所の大会議室でもらえれば、困る人も少なくなるのではと思いますのでご検討をよろしくお願いします。

市長：まず選挙の開票事務から申しますと、8階の大会議室ではスペース的にやってやれない訳ではないかもしれないけど、ぶつかりながらやるような形で、実際のところ物理的に無理かなど。総合体育館で今やっていますが、あれよりは若干狭くても良いですけどある一定のスペースがないと実際ご覧になっていただければ分かると思いますけど、ご理解をいただきたいなと思います。今回の選挙は急でしたので、事前に大会とか入ってましたのでその会場を移動していただいたりと、ご迷惑をおかけしました。早くから分かっていたらやりくりをするんですけど、そんな事情があったということでご理解をいただきたいと思います。チャイムのことで、確かに夏場ですと「夕焼け小焼け」のチャイムが日が沈むころであったけど、今は4時半という暗いですから、あのタイミングでチャイムが鳴るのはどうかというのはあるのかなと思います。ただ季節に関係なく6時だと、外で遊んでいたら家に帰ろうと意識を持たせるのかなと思いますので、検討課題とさせていただきたいと思います。

地域課題等につきましても、合わせて前段の5次総に関することでもかまいませんし、地域の魅力づくりでもかまいません。ご発言ございましたらどうぞ。

市民：先日の大水なんですけど、これから根本的にこういうことが起こらないようにするというのは多分お金のかかる話になってくると思います。それはそれで県の方との話で行政の方でやっていただくのは当然なんですけど、あの川が溢れるということは単純に本町の御座石神社から取り入れている水門から入ってくる水だと思うんですけど、もしあれを閉めればあれを防げるの

ではないかなと。

市民：本町区ですが、私も宮川遺跡の水門は、当日閉鎖しました。あの日は水は流れていません。なので、当然降水量が多すぎたということではないでしょうか。

市長：若干説明をいたします。いろんな要素があるかと思えますけど、一つの実際の数字で言いますと、比較するのが平成18年の大雨のときに浸水した白樺湖における累積雨量が469mm、今回は151mm。上川の銭場というその水位計の高さが平成18年のときに2m8cm、今回は1m33cm。宮川の安国寺でも、前回は1m86cm、今回は1m39cm。数字からいったらこんな風にならないだろうと思うんですけど、ただ江川橋のところの水位が前回のときは4m9cm、今回は4m60cm。ここだけ非常に多いんです。要素は単純ではないと思えますけど、一つは宮川から上川に水を流す取翻川がございしますが、あれを去年浚渫しました。非常にスムーズに流れるようになった。この川は宮川の洪水を防ぐために、宮川は上川に比べて狭いので水を流すように作った導水路です。浚渫して宮川の水が上川に流れてきたのはある意味良かった、そのための水路ですから。だけどそれを受け入れた下流である上川の河岸高がだいぶ高かったのではないかなと考えられます。これも新聞にも出ていましたけど、過日建設事務所に行きまして川底を掘ってくれとお願いしました。一応今年度中には対応したいということで、それで多少は解消されるかなと。今回も上からの水もあったでしょうけど、それ以上に上川の水が公園側に逆流して、水位が上がったことが一番の原因かと考えています。そういうことで河川改修も必要ですし、浚渫も必要ですし、どういうことが起きるか分かりません。公園の出口に水門を作って、上川からの逆流を防ぐ。内側に溜まる水はポンプで排出する、そんな幾つかの対応をしていかなければいけないだろうなど。水門を作ってポンプをとると億の単位になります。億の単位になりますけど、これはやっていかななくてはいけないことかなと思っています。これがハード対策になります。ソフト対策ではいろいろと構築していかなければいけないですけど、その近辺に専用の水位計を作って、一定程度になると警報が鳴るとか、そういう仕組みを作って近辺の人達に危険を知らせる。少なくとも車とか移動できるものの対応はできるかなと。他にもどんなことができるか考えてまして、それを持って12月半ば頃に検証会議をして、100%二度と起こらないとは言えませんが、より確実な対応をしなくてはいけないと考えています。

市民：上原区も地域の行政をやっていく中で、隣組単位で組長さんをやれないという組がだんだん増えてきています。回覧板も持って回せません。配り物は届けられません。そういう方ですから当然買物もできなくなっているんですけど、そういう方が急激に跳ね上がっていて、このまま行くと不安なところがあります。一方で、隣組を辞めたいというアパート中心の独身の方は一緒にやりたくないとなります。当然区の行政や組長をやると人と会わざるを得ない、それが嫌です。区費を払うのは構わないけど、人と会うのが嫌と言われてしまいます。こうして面と向かって話をするのは、独身の方は特に難しくなっています。ネット環境な

りで情報発信をしていかないと、配るものも届かなくなってしまう家庭は増えてきている傾向があります。その辺を市の方ではどのように考えているのか、区に全部丸投げて回覧物をくれても届かなくなってしまうので、何かありましたらお話をお願いいたします。

市長：具体的にこうというものはないんですけど、茅野市は今「ICT戦略」という計画を作っています。どういったことがITを使ってできるか。それが必要な時代になるだろうと思います。ゴミの出し方だとか毎月配布物はありますが、それよりも若者は直にメールが行った方が良いとか、そんなことも含めてどういったことができるかという「ICT戦略」を作っておりまして、これは第5次総の中に入れてまいります。そういった中で、これもできることからやっていく方向でいますので、今のような具体的なご提案いただければと思います。同時に顔を見たくない若者、人と接したくない若者は多分結婚もしないだろうし、そうなれば子供もいなくなる、そういった状況も逆に解消していかなければいけないという、ちょっとややこしくなりますけど、そんな取組も必要なのかなと感じています。過日、金沢地区でまち懇をやったときに各地区の人口がありますが、ちの地区も20代～30代ぐらいまでの男女の比率を見ますと、一般的には女性の方が高齢者を見ると多くなるんですけど、女性の方が少ない。金沢地区はどの年代でも女性が少なく、何でこんなに少ないの？と言ったら独身の男が多いと。考えてみて10人の独身の男性がいて、もし10人結婚していれば当然女性も10人増える訳です。そういうことかと話をしていたんですけど、これも大きい課題になってくると思います。これは個人の問題でもありますし、行政または区の皆さんが一概には言えませんが、社会全体でそういったことに対しての働きかけは、ICTを駆使することと、人臭いという部分も何とかしていかないと人類が減んでしまう、そんなことを私は真面目に考えておりまして。そういう部分でも先程の教育の中で、子供達にも最先端な時代の波を先端で泳ぐような教育と同時に、人間としての根本的なことも茅野市は合わせてやっていきたいと思っています。

良いですか？まだ時間はありますけど無理して引っ張ることもないかと思っていますので、もしご意見がないようでしたら本日のまちづくり懇談会は以上とさせていただきます。

ちの地区コミュニティ運営協議会会長：意見とかではなく皆さんにお願いなんですけど、先程の資料の「将来像の実現に向けて」というところで5つのまちづくりの基本指針ということでひろってあります。この中で最後に「あらゆる主体による協働のまちづくりにむけた仕組みづくり」というのがありますが、実はこの辺のことに関しても現在パートナーシップのまちづくり推進会議の中で、コミュニティの運協会長とコミュニティ所長さん全員が集まっての会議でして、昨日も行われました。その中で5つ目を分かりやすく言うと、今日お見えになっている消防団の方、区長さん、民生児童委員の方と様々な方がいらっしゃる訳ですけど、そういった方々と意欲的に繋がっていく中でまちづくりを一緒に進めていくという意味合いであります。運協の方も改めて再スタートしようということで、昨日もそんな話をしたところでございます。茅野市全体でコミュニティの方も動いていくかと思っています。文章にするとよそよそしい感じが

しますが、実態としてはそういうことでもあります。それぞれの区長さんについても充て職で出す流れではなく、具体的に動いていただける方をそれぞれの区でまとめていただき、区で解決できないことは地区に持ち上げていただいて地区全体で解決していきたいと考えています。ご理解と来年以降メンバーが変わる団体もあるかと思いますが、そんな引き継ぎもしていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

市長：是非運協の活動にもご協力をお願いしたいと思います。今日は短い時間でしたがいろんな意見交換ができて、これをまちづくりに活かしていきたいと思います。まち懇は年1回ですけど、それぞれの区の行事とかでお会いする機会はあるかと思いますが、その席でご意見をいただければと思います。今日は本当にありがとうございました。